

代表派遣会議出席報告

日付 平成 24 年 9 月 28 日

執筆者氏名 中島裕美子

(国際委員会 日本・カナダ女性研究者交流分科会)

1 名称

カナダにおける女性研究者についての現状や上記関連情報についての調査
WISET プログラム推進者との意見交換
Royal Society of Canada(RSC) 海外担当者との意見交換と打ち合わせ

2 会 期 2012 年 4 月 1 日(日)~4 月 8 日 (日) (8 日間)

3 会議出席者名 中島裕美子 (国際委員会委員)

4 会議開催地

- ① The University of British Columbia
- ② University of Manitoba
- ③ University of Ottawa
- ④ Royal Society of Canada 近隣の Fairmont Château Laurier ホテル

5 参加状況 (打合せの相手方名、人数等)

- ① The University of British Columbia
Prof. Patrick J. Keeling 他 日本人ポスドク研究員 4 名
- ② University of Manitoba
Prof. Judith Anderson (Head of Department of Biological Sciences)
Assistant Prof. Anne Worley
Associate Prof. Steven Whyard 他 大学院生 1 名
Prof. Janice G. Dodd
Associate Prof. Jeffrey Marcus
Prof. Annemieke Farenhorst 他 ナイジェリアからの女性研究者 3 名
- ③ University of Ottawa
Assistant Prof. Kristin Baetz
Prof. Linda Bonen
Associate Prof. Catherine Mavriplis
(Pratt & Whitney Canada Chair for Women in Science and Engineering)
Assistant Prof. Elena Dragomirescu
- ④ Royal Society of Canada
Prof. Jeremy McNeil (Foreign Secretary)

6 会議内容

・意見交換の内容

日本とカナダにおける、高等教育体制、自然科学系学部や大学院に籍をおく女子学生と自然科学に携わる女性研究者の現状と取り巻く環境、ジェンダーに対する大学、企業、また政府など公的機関の取り組み、男性、女性を問わずポスドクの就職や結婚、子育てなどについて、現状比較を行った。そしてこれらに関するそれぞれの国における問題点を議論した。更に問題を解決するためには今後どのような対応や施策が必要であるかを話し合った。

・ 打ち合わせの内容

今後も日本・カナダ女性研究者交流事業を継続するために、これまでの両国における体制を見直し、それに基づいて新たに改革すべき点の洗い出しを行った。そして、以下を考慮した上で、継続に向けた改訂案を作成する必要があるという結論に至った。

- ① 交流目的の明確化（両国における将来有望な若い女性研究者に刺激を与えることが大きな目的であるので、若い女性研究者との交流も必要ではないか）
- ② 派遣候補者の選出方法について（更に若い女性研究者、例えばポスドクなども候補対象者に入れるべきではないか）
- ③ 派遣先での訪問先に関して（これまでのように、多くの場所を短期間で訪問するのではなく、訪問先の地域をある程度限定し、その地域における女性の大学生や院生、また学校の児童などとも接する機会があった方が良いのではないか）
- ④ 派遣に関する費用の負担に関して（両国ともに、先方での滞在費用を含めた形式で派遣費用を負担すべきではないか）
- ⑤ 派遣後に提出されるレポート（交流の齎す効果を高めるためにも、記述する内容について限定した方が良いのではないか）
- ⑥ 派遣者同士の交流（派遣された両国間の研究者同士が交流し合う機会を設けるべきではないか）